

漂着ごみ「何だこれ」

白糠高生、海岸を調査

【白糠】白糠高校(田村信明校長)は、和天別川河口付近の海岸で初めての海洋漂着ごみ調査活動を行った。1年生(24人)の「総合的な探究の時間」の一環で、環境問題を探究する姿勢を養うことや身近な地域の環境問題について考え、環境意識を高めるのが狙い。

この活動は、日本財団などが推進する「海と日本プロジェクト」の「CHALLENGE FOR THE BLUE」海の未来を変える挑戦」の企画で、調査研究の依頼を受けて参加した。

授業は7月17、20、29日の3日間行った。

17日は、生徒や教員をはじめ久遠塾スタッフや川島眞澄教育長、町職員ら合わせて30人が海岸に漂着したペットボトルや破れた漁網、プラスチックケースなどのごみを拾い集めた。生徒は「何だこれは」「もったいない」などと声を上げながら約30分にわたり作業していた。

拾い集めたごみは280キログラムで、20日に同校で分別作業を行った。29日は調査結果をまとめてデータを整理し、レポートを作製した。



海岸に漂着したごみを拾う生徒

慶伊陽さん(15)は「ごみが多くて大変だった。ポイ捨てる人がいることが悲しい」と話していた。
(水谷友路)